

第48回 中頭地区中学校新人柔道競技大会開催について

1. 主 催 中頭地区中学校体育連盟
2. 共 催 沖縄県教育委員会
3. 後 援 沖縄市教育委員会
4. 主 管 中頭地区中学校体育連盟柔道専門部
5. 期 日 令和8年 1月18日(日) 開館8:00
午前9:15朝の監督会 午前9:45競技開始
男子団体→女子団体→男子個人→女子個人
※(計量は8:45～9:15)
6. 会 場 沖縄市武道館 柔道場
7. 参 加 料 団体男子1チーム 5,000円 団体女子1チーム 3,000円
男女個人(※団体戦メンバーは除く) 1,000円
8. 申込締切 令和8年 1月7日(水)午後3:00(メール提出期限)
※エクセルデータ
9. 申込み先 ①申込みはメール送信になります。「中頭地区中体連HP」にあります。
申込み用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記アドレスまで
メール送信して申し込んで下さい。
※ファイル名を学校(チーム)名にしてください。(普天間中学校→「普
天間中」、日本柔道クラブ→「日柔ク」)
②送信先アドレス⇒ (**judo609@ymail.ne.jp**)
③申込用紙の原本は公印を押して、**1月9日の監督会・抽選会**に持参して下さ
い。
④メール受信ができましたら返信メールを送ります。監督会前日までに
返信がなければ専門部長(普天間中学校:宮城淳)まで確認してくださ
い。
10. 監督会議 令和8年1月9日(金)午後3:30 普天間中(Tel 892-3328)
※参加料は監督会にて徴収します。(Fax 892-0588)
11. 企画運営者 宮城 淳(普天間中) 呉屋健一(嘉手納中) 仲間清規(西原中)
島袋芳代(嘉手納中) 仲村一輝(与勝中) 森春樹(普天間中)
12. 参加資格
(1) 選手の引率は出場校の校長・教員・部活動指導員及び、中体連に登録している地
域クラブ活動の責任者が許可した者とする。監督等は出場校の校長・教職員(常
勤)とする。教職員以外のコーチについては学校長の認めた者で、地区・県に登
録された者とする。但し、ベンチ入りについては1名のみとする。
(2) 沖縄県中学校体育連盟が主催する本大会に出場するチーム・選手の引率者、監督、
部活動指導員、外部指導者(コーチ)、トレーナー等は、部活動の指導中におけ
る暴力、体罰、セクハラ等により、任命権者又は学校設置者から懲戒処分を受け
ていない者であること。校長はこの点を確認して、大会申込書を作成する。なお、

- 外部の指導者は校長から暴力等に対する指導措置を受けていないこととする。
- (3) 柔道修業期間6ヶ月以上経過した中学生のみ、大会に参加することができる。
- (4) 拠点校部活動や地域クラブの参加資格の詳細については、沖縄県中学校体育大会開催基準「特別規定」に準ずる。
- (5) 団体 イ、チーム編成 学校、クラブ単位で編成したチーム
(代表の部のみとし、2チームまで可)
ロ、チームの人数 男子は監督(教員)選手5名、補員2名以内
女子は監督(教員)選手3名、補員1名以内
※監督は男女兼ねることができる。
- ハ、選手の編成は最も重いものから大将とし、以下順次体重順とする。
補員を選手に入れた場合も順次体重順の編成となる。試合ごとに選手の位置を変えることはできない。また、一度退いた選手は再出場できない。

個人 男子 ① 50 kg級 ② 55 kg級 ③ 60 kg級 ④ 66 kg級
⑤ 73 kg級 ⑥ 81 kg級 ⑦ 90 kg級 ⑧ 90 kg超級
の8階級とし参加制限なし。

女子 ① 40 kg級 ② 44 kg級 ③ 48 kg級 ④ 52 kg級
⑤ 57 kg級 ⑥ 63 kg級 ⑦ 70 kg級 ⑧ 70 kg超級
の8階級とし参加制限なし。
但し、参加状況を見て、少数の場合は階級を統一して行う場合もある(監督会にて確認)

13. 審判規則
- (1) 国際柔道連盟試合審判規定(2025年4月1日施行の新ルール)及び国内における「少年大会特別規定」及び本大会申し合わせ事項による。
※絞め技を禁止とする。施した場合は「指導」とする。「逆背負い投げ」(通称)、「両袖を持って施す投げ技」を禁止とし、かけた場合は、反則負けとする。但し、「両袖を持って施す投げ技」については両袖を持って出足払い、支釣込足等を施して、相手を背部あるいは上部側面から着地させることまで禁止するものではない。
- (2) 試合時間は団体、個人ともに3分間とする。団体代表戦及び個人戦の延長戦(GS: ゴールデンスコア)は時間無制限とする。
- (3) 勝敗の判定基準は、団体戦においては「一本」、「技有」または「僅差(指導差が2以上)」とする。
※技有2つで「一本」(合わせ技一本の復活)
- (4) 抑え込み時間
5秒で「有効」、10秒で「技あり」、20秒で「一本」とする。
- (5) 優劣の成り立ちは以下の通りとする。
- ① 【団体戦】一本=反則勝ち>技有>有効>僅差(指導差が2以上)
② 【個人戦】一本=反則勝ち>技有>有効>僅差(指導差が2以上)
③ 【延長戦(GS)(団体戦の代表戦及び個人戦)】
※規定の試合時間が終了した時点で、試合両者にスコアがない場合、もしくはスコアが同等か「指導」差1以内の場合は、延長戦(GS)を行って勝敗を決する。
※延長戦(GS)中に「指導」差が上回った時点でその選手が負けとなる。
- (6) 団体戦の代表戦は試合を行った者の中から監督の任意の選出とする。
- (7) 団体戦は3位決定戦を行い、個人戦においては行わない。

14. 競技方法

- 〔団体戦〕 (1) 代表チーム(1・2年混合)とする。

- (2) 予選は各チームが2戦以上できるリーグ戦を行い、ベスト4による決勝トーナメントを行う。
- (3) リーグ戦の順位は、次の方法によって決定する。
- ア チーム間における勝ち、引き分け、負けの率による。率については、2勝、1勝1分け、1勝1敗、2分、1分1敗、2敗の順とする。
 - イ アにおいて同等の場合は、勝ち数の合計による。
 - ウ イにおいて同等の場合は、勝ちの内容により決定する。
 - エ ウにおいて同等の場合は、負け数の合計による。
 - オ エにおいて同等の場合は、負けの内容により決定する。
 - カ オにおいて同等の場合は、代表戦（1名）を1回行い判定する。
 - ※ チーム間で同等の場合は代表1名ずつによるリーグ戦を行う。
 - ※ 参加チーム数によっては、決勝リーグのみもある。（監督会にて確認、決定する）
- (4) トーナメント戦の勝敗は、次の方法によって決定する。
- ア チーム間における勝ち数による。
 - イ アにおいて同等の場合は、内容により決定する。
 - ウ イにおいて同等の場合は代表戦（1名）により決定する。

〔個人戦〕 (1) 各階級トーナメント戦で行う。
※参加数が少ない場合は考慮し監督会にて確認する。

15. 試合時間 3分（団体、個人とも）

16. 表彰 3位まで表彰

17. その他
- ・ 監督会に参加しない場合は専門部に全て一任するものとする。
 - ・ 柔道衣（ゼッケン等）に関しては中体連の夏期大会に準ずる。
（学校名、姓、男子黒、女子濃い赤のゴシック体※明朝、楷書も可）
（サイズ縦25～30cm横30～35cm、姓上側2/3、学校名下側1/3）
（襟から5～10cm下部の位置で、周囲と対角線を強い糸で縫いつける）
 - ・ 帯に関しては、女子も男子同様に白線の入っていない帯に統一する。
 - ・ 皮膚真菌症（トングランス感染症）について症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については迅速に医療機関において的確な治療を行うこと。もし、選手の皮膚真菌症の感染が発覚した者は、大会への出場ができない場合もある。
 - ・ 急病人や大会中のけがについては応急処置に止め、それ以上の責任は負わない。
 - ・ 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。（なお、至急専門医〔脳神経外科〕の検査を受けること）
 - ・ 会場のゴミは、各学校で責任を持って持ち帰る。
 - ・ 「待て」以後開始線に戻るまでに道衣の乱れを正すなどルール改正等は、全柔連HPをご参照ください。
 - ・ 大会当日、開閉会式、柔道衣や頭髮、眉等の検査も行わない。各校顧問、校長、クラブ責任者が責任を持って身なり点検を済ませておく。クラブ所属の選手は在籍学校の校則を順守する。
 - ・ 朝の監督会を行う。
 - ・ 大会運営の役員をお願いすることもあります。御協力よろしくお願いします。